

【日 時】 令和元年6月26日（水）午後3時～5時

【場 所】 交野市役所本庁 本館3階 第1委員会室

【出席者】 全委員15名

事務局 5名（企画財政部長、同次長、政策企画課長、同係長、同係員）

【傍聴者】 1名

【議 題】 1. 総合戦略の進捗について

(1) 交野市の人口動態について

(2) 平成30年度に実施した個別事業の実施状況及び検証

(3) 平成30年度の「かたのツーリズム」の実施状況について

2. 第2期総合戦略の方向性について

【資 料】 （資料1）平成30年度 総合戦略実績報告書

（資料2）平成30年度 数値目標進捗管理表

（資料3）第2期交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について

（参考資料）転入出者アンケート集計結果

【主な質疑・意見等】

## 議題1. 総合戦略の進捗について

### (1) 交野市の人口動態について

（委員）

- 3ページのグラフ「本市における人口動態の内訳」を見ると、1994年は転入出数が合わせて約1万人だったのが、減少傾向で推移して直近年では約5,000人と半減している。急激に人口移動が減っているのは何故か。

（事務局）

- 1996年頃は少し前に星田西等の大きな開発があったので転入が多かったと考える。

（委員）

- 転出も同様に減少傾向だが、徐々に高齢化率が高くなっている、先ほどの転入出アンケートにもあるように、動くのは若い方が多いので、その影響が大きいのだと思う。

（委員）

- 転入者アンケート問7について、どういう人がどういう住宅に入っているのか、もっと詳しくわかれば良い。転入者の大きなボリュームは、若い単身者と子育て世帯なので、全体的に、そのグループ毎にクロス集計するとお良いと思う。
- 転出者については、家族構成がわからないが、若い人は就職等で単身で出て、転入者は家族を連れて帰ってくる方が多いという印象だ。世帯数などは増えていないのか。

(事務局)

- アンケートのクロス集計は次回までに分析して示したい。
- 全体としての世帯数は増えている。

(委員)

- 転出者アンケート問7で「交野が好きだ」と答えた人が70%を超えており、住民として非常に嬉しい。一方で、問6-8「市役所の取組に対する評価」では、「良い」「やや良い」は30%弱だ。市役所として、自然環境保全や子育て支援といった交野の特色を示す必要がある。30代・40代を呼び込むためにも、(転入者アンケート問9でも表れている)子育て支援や教育といった彼らの求める部分と、交野の大きな財産である自然環境の保全を推進してほしい。

## (2) 平成30年度に実施した個別事業の実施状況及び検証

### 《基本目標1》

(委員)

- 令和元年に開始する「子ども見守りシステム事業」はどのようなものか。

(事務局)

- 見守り端末を児童が携帯して移動すると、校門や通学路沿いの事業所・店舗等に設置した受信器で検知して、位置情報を保護者に伝えるというシステム。全校で導入している。

(委員)

- 「子どもの居場所づくりへの補助(子ども食堂等への補助)」(4頁)は、立ち上げ支援だが、運営支援を行っている市町村もある。そちらも検討してほしい。
- 数値目標(KPI)の「認知されたいじめの件数」「認知された不登校の件数」の内訳を知りたい。ソーシャルワーカーを各中学校に1名配置しているということだが、計4名でこれだけの数に対応できているのか。

(事務局)

- 「いじめの件数」は小学校18件、中学校58件。「不登校の件数」は小学校7件、中学校22件。
- スクールソーシャルワーカーは、個別の事案を細かく見るというよりは、学校の対応を支援しており、小学校も含めて対応している。

(委員)

- 「子どもの居場所づくりへの補助(子ども食堂等への補助)」の実績がゼロだが、要望がなかったのか。

(事務局)

- 申請は2件あったが、うち1件は地域との調整がつかず立ち上げに至らなかった。もう1件は宗教法人が母体の団体で、実態を見た結果、市が補助するのは難しいと判断した。

(委員)

- 「小中学校の英語教育」(6頁)の「中学生の英語力(英検3級程度)」の数値が、3年で倍以上に向上している。少し良すぎると思うが、どういうデータの取り方なのか。

(事務局)

- 平成30年度は英検I B Aの結果だ。平成27年度の数値の出し方は把握していないが、交野は英語教育を小中一貫教育の柱の1つと位置付けており、カリキュラム面の強化やA L T(外国語指導助手)の増員など力を入れた結果だと考えている。
- 数値の出し方は調べる。

(委員)

- 同じく「小中学校の英語教育」について、効果が出ているのであれば、もっと宣伝してはいかがか。

(事務局)

- 昨年度に英語弁論大会を行った。今年も7月に実施する。その他P Rについても教育委員会と調整中だ。

## 《基本目標2》

(委員)

- 「交野めぐり」(8頁)はこれまで4回開催したが、毎回300人ほどの参加がある。九州からの参加者もいた。市民の方にも「こんな企業があったのか」、「交野市に世界に通用する企業があったのか」と認識してもらう機会になっている。摂南大学の協力も得て、学生さんにも参加してもらった。
- 魅力的な企業を知ってもらい、就職ひいては交野市への転入につなげることを目的にしている。今は平日にバスで各工場を巡る形態だが、現役世代にも参加してもらえるよう、また実際の就労につなげられるよう、土日祝日に事業所を1か所に集める形で開催することを考えている。調整中だ。
- 他に例がない取組なので、他府県から参考にされることも多い。
- 就労実績は、第1、2回で正規社員として計3名、パートも数名あった。

(委員)

- (交野めぐりについて)例えば中学生を対象にすれば、将来の就労につながるかもしれない。

(委員)

- 実際に中学校に打診したことがある。カリキュラムの都合で断念したが、中学生に、自分達のまちにある企業を知ってほしいという思いはある。これからも課題としたい。

(委員)

- 今、「80・50問題」と言われる、ひきこもりの方々の課題について、交野市でも高校生以上の方について実態を調査して対策を推進してほしい。他市町村では、地元企業への就労や就農に繋げているところもある。交野市においても潜在的課題だと思う。地元企業や農、あるいは「高卒認定試験補助」(7頁)など様々なところにつなげるような施策があれば良いと思う。
- 明確な窓口があれば良い。

(事務局)

- 大きな課題であると捉えている。実態を把握し就労へつなげることは、難しい面はあるが、他市事例等も参考にしながら取り組んでいく必要はあると考える。
- 社会福祉協議会等とも連携しながら、どこに相談したらよいかを明確にする、周知するというのも必要だと考える。

### 《基本目標3》

(委員)

- 「移住定住促進事業」(9頁)の近居・同居の内訳を知りたい。
- この補助金があるから転入した、という人がどれだけいるのか。

(事務局)

- 近居が多く、同居が少なかったと思う。
- 結果として子育て世帯の転入につながっている。親世帯から補助金のことを聞いたという人が多いと聞いている。転入を促す材料の1つにはなっていると思う。

(委員)

- 同居・近居補助金と、(令和元年に開始する)中古住宅リフォーム補助金(10頁)は重複申請できるのか。

(事務局)

- 同居・近居補助金のリフォーム補助の対象は、新築もしくは同居の場合の親世帯の住宅のみ。リフォーム補助金は中古住宅に越してきた場合が対象。したがって重複適用はない。

### 《基本目標4》

(委員)

- 「モノシェアリング」(11頁)の貸出物品をリスト化して明示してほしい。また貸出物品を増やしてはどうか。
- 「まちの図書館化事業」(11頁)の本棚の設置場所がわかりにくいので、設置場所と利用方法を広報等で案内してはどうか。

(事務局)

- モノシェアリングの貸出物品一覧は、ホームページ上では公開している。物品数も一定はあるが、制度周知そのものには課題があると認識している。改めて広報紙に載せるなど、紙での広報も検討する。
- まちの図書館化については、当初は広報した。直近の周知については弱い部分があると思うので、確認の上対応する。

### (3) 平成30年度の「かたのツーリズム」の実施状況について

(委員)

- イベントの参加費が高いという意見・感想がある。金額設定を検討してはいかがか。
- イベントの満足度も大切だ。

(事務局)

- 協議会の中でも同様の意見があり、検討の結果、令和元年度分は金額を下けている。
- 将来的に自立して（交付金終了後も）事業を継続するというのが交付金の要件でもあるので、あまりに低い金額だと赤字になり継続不可能になるということで、1年目は高めの金額設定になったという事情もある。3年間やっていく中で、ニーズも見ながら（適切な金額を）判断していくものだと考えている。

(委員)

- 参加者へ継続的に情報発信してほしい。例えば、ぶどうの袋掛けが始まったとか、おりひめ大学で酒づくりしているとか、街中でほたるが飛んでいるとか、そのような話題を発信すれば、日常生活の中で接点が増えてくると思う。  
農とのふれあいツアー、おりひめ大学など、受け皿は既にあるので、そこにどうつなげていくかだ。是非取り組んでほしい。
- 市の中では部署横断的に取り組んでほしい。登山道整備や道標の設置など、今は担当部署が個別に行っていると思うが、そのような部署にも、かたのツーリズムを意識して、広い視点を持って各事業を行ってほしい。
- そうすれば、単に観光に来るというだけでなく、生活圏に交野が含まれる、住んではないが色々な機会に交野に来るといふ、いわゆる関係人口が増えてくると思う。

(事務局)

- 情報発信は、当初想定として協議会の取組に限定してはならず、内容の充実が協議会の中でも課題と捉えているので検討する。
- 市の部署間連携は、協議会のニーズを担当部署に取り次ぐということも含めて、協議会に伝える。

(委員)

- 情報発信に関して、現在交野市のウェブサイトには、市公式ホームページと「織姫ネット」があり、さらに新たに「かたのスイッチ」もできた。情報発信をバラバラに行っている印象を受ける。また、情報が分散しており、どこに情報があるのかわかりにくい。情報発信手段としては、一つのサイトを見たら全てわかるようにした方が良いのではないか。

(事務局)

- 織姫ネットは商工会議所が運営しており、地域情報を発信している。一方かたのスイッチは市外の人を対象に、観光情報を市公式ホームページを補う形で発信している。ただ、情報をどこかに集約するという観点は必要であるので検討していきたい。

(司会)

- かたのツーリズムについては議論を深めたいので、次回も議題としたい。事務局には、委員からの意見をまとめるとともに、かたのツーリズム推進協議会の事務局である、交野市星のまち観光協会

とも十分調整しておいてもらいたい。

## 議題2. 第2期総合戦略の方向性について

(委員)

- 資料に、今後の方向性として「大阪府の方針を踏まえ」とある。今までどちらかといえば各自治体が自己本位でやってきたと思うが、実際のところ、転入で人口を増やすといっても、大阪府トータルとしてゼロサムでは、コストのかけ合いに終わってしまう。これからは住民基本台帳の人口を増やすという発想ではなく、関係人口を増やすという視点で考える必要がある。
- 第2期における新たな視点の「(2) 新しい時代の流れを力にする」(資料3-3中)の中に「Society5.0」が出ている。情報化社会、超スマート社会が必要だということはわかるが、実際何をやるのか。人口は増えないが、高齢者は確実に増えている。高齢者というとマイナスイメージを持たれるが、彼らも消費者だし、「70歳まで働こう」などと言われている中でどんどん社会に出ていかなければならない。新しい超スマート社会の中で、高齢者を積極的に、プラスに活用していく施策が必要だと思う。

そのためには移動の手段や働く機会といった社会インフラをどのようにつくっていくのかが重要。例えば、交野市ではバスが不便だと言われているが、ある地域ではバスの停留所に「モビリティ・ハブ」といって自転車を置いている。交通の要所につながるレンタサイクルのネットワークをつくるか、そういう取組なども、高齢者が社会に出ていく・社会で活躍する、消費が拡大するということにつながっていくと思う。今までと違う視点で考えて対策を行っていく必要がある。

(委員)

- 最近、大学への相談として自治会に関わるものが増えている。内容は、自治会の担い手が高齢化しているので世代交代を図りたいとか、子ども達にもっと活動に参加してほしいなどで、実際に私も相談を受けて交野市で活動しているが、自治会の運営も、今までの方法では続かないのではと思っている。「Society5.0」を活用しながら、新しいモデル、「うまいやり方」考えられないかという視点をもっている。自治会がしっかりしている地域はコミュニティもしっかりおり、安全・安心のまちづくりができています。足元を固めるという視点をもってほしい。
- 交野市の住民は意識が高く、市民活動やボランティア活動も含め、まちづくりに熱心だ。第2期における新たな視点(6)「地域経営の視点で取り組む」とあるが、エリアをどうしていくのかという視点をもっとほしい。変に開発されてしまってまちの良さがなくなってしまうのは非常に悲しいことなので、都市マスタープラン、都市計画、総合計画と連動して、交野の良さを維持・発展できるように進めてほしい。

以上

(担当 政策企画課)